

バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第132号 [2016年2月]

さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8章22節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

主の聖名を賛美します。バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第132号をお送りします。今月もルカ福音書6章の続きを学びを続け、12使徒を選ばれたイエス様について考えました。

このころの主イエスには相当な数の弟子があり、莫大な数の民衆が病の癒しや悪霊からの解放を求めて集まってきてイエスを囲んでいたほか、律法学者やファリサイ人たちは常に主イエスを観察しては重箱の隅をつつくような問いかけをし、今では暗殺計画をも練っている。そういう状況下にあつて、主は山にこもり、一晩、徹夜で祈りを捧げた。神の子である主が父なる神に夜を徹して祈りを捧げる姿に、祈りを捧げることの重要さが痛感させられる。

祈り明かして夜が明けると、主は弟子たちの中から12人を選出し、使徒として任命された。

ペトロ：目立つ性格で行動が先走りだが主から「岩」の名を受けた信仰者（ヨハネ1：41-42）

アンデレ：シモン・ペトロの兄弟。彼と共に漁師（ヨハネ1:35-40）

ヤコブ：ゼベダイの子でヨハネの兄弟。二人とも主から「雷の子」とあだ名された（ヨハネ21:2）

ヨハネ：ゼベダイの子でヤコブの兄弟。二人とも主から「雷の子」とあだ名された（ヨハネ21:2）

フィリポ：ガリラヤ湖北部に位置するベトサイダの出身。（ヨハネ1：43-44）

バルトロマイ：フィリポに連れてこられた人物。カナ出身のナタナエルと同一人物？（ヨハネ1:45-51、21:2）

マタイ：徴税人。ルカ5章27-28節に出て来る徴税人レビと同一人物？（マタイ10:3）

トマス：主イエスの復活を自分の目で確かめるまで確信しなかった。別名ディディモ（ヨハネ20:24-25、21:2）

アルファイの子ヤコブ：レビ（マタイ）の父と彼の父が同一人物なら、彼はマタイの兄弟？（マルコ2:14）

ヤコブの子ユダ：アルファイの子、ヤコブの子。つまりアルファイの孫？別名タダイ（マタイ10:3）

熱心党と呼ばれたシモン：スペインのバスク愛国党（ETA）のような組織から主イエスの使徒となった篤信家

イスカリオテのユダ：ケリオテ（土地詳細不明だがユダヤ地方）の人ユダ。12使徒のうち唯一のユダヤ出身者

彼らについて一人ひとり4つの福音書に記されている記事と比較すると、立派というよりもごく普通の、今現在私たちの周囲にいそうな人物ばかり。それでも彼らは主イエスの徹夜の祈りから選出された12人だったことに変わりはない。彼らは主イエスが自分のそばに置いて共に生活し、また各地に派遣して宣教と悪霊追放を実施するために教育され、その権威を与えられた（マルコ3：14-15）。しかしそれほど目をかけられながらも、彼らは失敗を繰り返さずにはいられない。筆頭使徒のペトロですら、主イエスが迫害されると「あの人を知らない」と断言してしまう弱さがある。私たちだって同じ状況になったら同じ弱さを披露する可能性はとても高い。



そして彼らは一様に、復活された主からそれらの失敗を指摘され、教えられ、なだめられ、贖われて、更に主の愛の深さを確認し、生涯をかけて宣教の業に努めていく。この成り行きをみると、主イエスの徹夜の祈りが彼らの人生に脈々と息づいていることを感じる。祈られた本人は何も知らなくても、捧げられた祈りは神様によって大きく用いられ、漁師が、罪人が、一介の村人が、テロリストのような荒々しい男まで、つまづき挫折しながらも、自らが夢にも思わなかった偉業をなしとげる人生を走りぬいていく。そして、私たちがまた、神の子イエスに心を水のようにして祈っていただいた一人ひとりであることを忘れてはならない。